

平成29年度 戸倉小学校 教職員 非違行為防止研修 その2

戸倉小学校では、平成29年度は

○子ども、保護者、家族の事を念頭に置いて、自らの言動を律する強い気持ちを持つ。

○教職員同士が心を開き、わかり合い批評し合うことのできる関係を築く。

を目標に、非違行為防止研修を進めてきています。8月以降は次のような研修を行いました。

8月 「体罰」「交通事故」の処分事例を読み合わせました。また、「犯罪を含む無責任な行動につながりやすい『認知の歪み』の例」を読み、自分が使ったことがあるかどうかを省みて、自らの心や行動について見直しました。

<先生方の感想>

- ・私はどちらかという、トラブルを避けるために、ごまかしてしまったりする自分の姿があることに気づいた。時と場合にもよるが、そういう自分の姿があることを自覚したい。
- ・認知の歪みについてチェックしてみると、いくつかあてはまるものが見つかってしまった。自分はこんなふうを考え、行動しているのだと客観的に見られたのがよかった。改めるべき点は、少し見えたような気がするので、2学期の学級経営に合わせて、自己改善にチャレンジしてみようと思った。
- ・これまで自分自身の中でよくないと感じていたところが資料に具体的に示されていてはっとさせられた。より意識していかなくはいけない。また、事例については他人事ではないと緊張しながら読んだ。

9月 「鮫川のはなし」を読み、性暴力について考えました。自身や他者の考える性や性役割、価値観を知り、理解するきっかけとなりました。

10月 9月に千曲市内の小中学校で起きた教職員の交通事故や交通違反についての連絡がありました。自覚を持った安全運転、交通法規の遵守、模範的な運転に努めるように自己を見なおしました。

11月 懲戒処分等の指針の一部改正「ハラスメント」(わいせつな行為等→ハラスメントに改正)について資料を読み合わせました。また、「パワーハラチェックシート」で自らがパワーハラスメントを行っていないかどうか振り返りました。

12月 交通安全教育指導員に来ていただき、Googleを使った酒酔い運転の模擬体験と、夜間の運転についての注意について学びました。PTA会長さんにもご参加いただき、ともに研修を深めるとともに、先生方へのメッセージをいただきました。



<先生方の感想>

- ・お酒を飲んだときの見え方の体験は初めてだった。普段の時と全く見え方が違うということがよくわかった。また、暗いところでの見え方についての話では、自分の身を守るために、できることはしていこうと改めて感じた。
- ・ほろよい気分ということで、たかをくくっていたが、実際歩いてみるとまっすぐ歩けないことに気づき、酒酔いというのは、自分は大丈夫と感じていても、人から見ればかなり危なっかしいという感じを持たれてしまうのだと思った。これからも飲酒運転（自動車・自転車）は絶対にしないことを改めて感じた。歩く時も気を付けたい。
- ・お酒を飲むと、意識と行動にずれが出ることがわかった。まっすぐ歩いているつもりでも、曲がっていたり、距離感も違っていたりと、危険であることを認識して安全にお酒を楽しみたいと思う。飲酒運転は絶対にしないが、歩く時も気を付けたい。
- ・2枚の写真（昼と夜）を見て、本当にびっくりした。あんなに見えにくいとは。実際夜間の運転では、急に人が出てきたような錯覚をして、ドキッとすることがある。日頃乗り慣れている道でも十分気を付けて運転したい。
- ・酒酔いを模擬体験できるゴーグルをつけて歩くことで、自分の体がどうなっているか、いかに危険な状態であるのかを客観的に把握することができ、実感できた。

研修にご参加いただいたPTA会長さんからは次のようなお話をいただきました。

今日の研修で、飲酒運転が危険であることを改めて感じました。危ないとわかっているけど、自分は大丈夫、このくらいの量なら大丈夫、このくらいの距離なら大丈夫、といった甘えや過信が出てしまうものなので気を付けていきたいものです。

飲酒運転で事故を起こすと、自分の家族、相手の家族に悲しい思いをさせてしまうことになりませんが、先生方の場合は子どもたちにもそんな思いをさせてしまうことになります。

今日の研修を自分のものとし、みんなで気を付けていきましょう。

今後も非違行為防止研修を継続していきます。